

### 第三部 内定者の官庁訪問 体験記

このコーナーでは、経験しなければなかなか実体が掴めない官庁訪問の様子をお伝えします。後半に内定者の一問一答形式の質問も載せていますので、訪問前のイメージトレーニングに是非お役立て下さい。

なお、掲載している情報はあくまで **H27 年度官庁訪問における経験に基づき内定者の視点から語られたもの**であり、来年度以降の官庁訪問のシステムや内容は**以下と異なる可能性があります**。詳細はご自身で各省庁にご確認ください。

#### － 環境省の官庁訪問（一般職試験）の簡単な流れ －

官庁訪問前

環境省の HP を確認する。環境省官庁訪問申込票をダウンロードし、記入する。

↓

官庁訪問当日

9 時 受付が開始されます。受付終了後は控え室で待機します。

↓

面接が数回行われます(人によってまちまちですが、それほど遅くない時間に解放されます！)。

#### － 環境省の官庁訪問（一般職試験）の面接 －

面接は人によって回数は違いますが、極力受付した順番に呼ばれるようになっています。面接では、訪問申込票を見て一緒に確認していく面接官と、ほぼ申込票を見ずに進めていく面接官とがいます。その後どのような業務をしているか説明をしてくださる人もいます。大体面接官から質問され、その質問に関して一緒に話しながら考えを深めていくような流れです。時間は1回30分から1時間程度です。面接に呼ばれるまで1,2時間空くこともあります。雑談していてもいいようですが、今回の内定者が訪問した時はそれぞれがノートや訪問票を見返していました。

#### － 環境省の官庁訪問（一般職試験）の服装 －

男女ともにほとんどの人がスーツを着用していました。ただクールビズ期間中で軽装が推奨されていることもあり、上着を着用している人は少数でした。数名ポロシャツの人もありました。夏の暑い時期ということはもちろん面接官の方々も理解していますので、無理のない服装で良いと思います。

## 一 環境省の官庁訪問（一般職試験）の体験記(質問形式) 一

-----情報を手に入れづらい....官庁訪問って実際どんな感じ?-----

### 【官庁訪問前に準備した事は何ですか？】

- 自分の短所に対してどんな行動を起こしているか考えました。僕は話し伝えるのが弱いので、意見の伝え方の本を読み、少しずつ日常で実践していました。あとは、環境省が関わっている政策を、できる限り新聞と web で探してまとめました。こんな質問が来たらこんな自分のエピソードにつなげたいなどのパターンも考えていました。本番は緊張してしまいうまく活かせませんでした……。
- HP やパンフレットを見て大切だと思ったところをノートに書き写してすぐに確認できるようにしました。
- 私は公務員が第一志望だったので、民間企業の面接を受けてとにかく面接の雰囲気慣れようと民間企業を 5, 6 社受けました。あとは、志望動機や自己 PR を友人に聞いてもらって第三者目線からの意見をもらいました。

### 【官庁訪問全体の印象はいかがでしたか？】

- 環境省以外の官庁訪問を知らないで情報不足ですが、僕が緊張するには十分な環境が整っていました。実際に面接を受けているときよりも待合室の方が緊張していたほどです。途中から職員の方も入ってくださり、おしゃべりしても大丈夫だと知ったときは、ほっとしました。
- 面接官や受付の職員はみんなおおらかで、リラックスして活動できました。
- 環境省では、5, 6 人の方と一人ずつ面接をすることができ、いろんな話を聞くことができたところがよかった点です。環境省で働くイメージが深まりました。他省庁も官庁訪問をしましたが、形式は省庁によって違いました。官庁訪問期間に(面接を兼ねて)業務説明会をしてから採用面接を行うところもあり、拘束時間が長いイメージでしたが、数時間で終わってしまうところもありました。

### 【官庁訪問全体で失敗した/苦労した点は何ですか？】

- 僕の中で固まっている気持ちをうまく伝えられなかったことです。悩み熟考した結果環境省に訪問しているという気持ちを、もう少し伝えられたらよりスツとしたと思います。
- 自分の知識を上手く噛み砕いて説明できなかったこと。
- 私の研究内容がなかなか人に伝わりづらく、苦戦しました。私の場合、相手に伝わりづらくても、理解してもらえるように、根気よく自分の言葉で説明したところが良かったみたいです。

### 【環境省で印象に残ったやりとりはありましたか？】

- ・ 発展途上国でこれから起こる可能性がある公害をどう防いでいくかというお話の中で、現地で被害を受ける人たちに理解してもらうには？と伺ったところ、「聞く」ことですね。と即答されていて、ここで働きたいと強く思いました。
- ・ 自分の中では当然のように考えていることが、他人には難しく理解しづらいと言われたこと。
- ・ 国際交渉を担当したことがある方と面接した際に、その国の歴史によって、感じ方やとらえ方が違うことを知り、それを踏まえた上で、国際会議等で意見を述べていかなければならないと感じたことが印象的でした。

### 【環境省の面接中に困った質問はありましたか？】

- ・ 興味がある仕事以外のことをする場合は大丈夫か？という質問。最も興味があることを話した後のため、ほかの問題への自分の興味が薄らいで見えそうで答えづらかったです。
- ・ 「中学生相手に研究内容を説明して」といった質問。
- ・ 危険な化学物質の環境基準を決めるとしたら、どんなことを考えればいかなと聞かれたことが、実際に業務に着手しているみたいで、面白くも悩まされました。

### 【環境省の訪問前後のイメージに変化はありましたか？】

- ・ 良い意味で変化はあまりありませんでした。面接官の方が、環境省の人いい人が多いでしょ。と話されていましたが、その通りだと思います。説明会の後、メールで質問をした時も丁寧なお返事をいただき、イメージ通りの人が多くいらっしゃいました。
- ・ 自分が考えているよりもっと大きな規模で運営していると感じました。
- ・ 比較的新しい組織で、一年目から様々なことを任されると聞いたことはイメージ通りでした。他省庁のインターンシップでの経験から堅いイメージもありましたが、環境省はスーパーカーを推奨していることもあり、服装もラフな格好の方が多い印象でした（中にはアロハシャツを着ている方も笑）。個性豊かで多様性に富んでいて、「仕事楽しい！面白い！」と言っている先輩職員の方々に私もついていきたいと自然に思える職場だと思いました。

以上の回答はあくまで今年度の内定者の主観に基づくものです。

官庁訪問には一人ひとり特別なストーリーが生まれるもの。もしこの冊子を見ていただいて、国家公務員に興味をもってくだされば、是非将来の一つとしてご検討下さい。